

平成29年度(2017年度) 施政方針



町田市長 石阪 文一

2017年度の
市政運営の視点

未来への投資と公共サービス改革

いま、大きな変化の時代が始まろうとしています。グローバル化、若者の意識の変化、情報通信技術(ICT)の進化等さまざまな要因が絡み合い、価値観の転換やライフスタイルの多様化が加速度的に進んでいます。

町田市未来づくり研究所では、町田市の人口は2020年ごろから減少が始まり、2030年ごろからは、東京圏全体で人口減少時代に突入すると予想しています。

町田市を取り巻く環境が大きく変わる中、今般、町田市基本計画「まちだ未来づくりプラン」の後期実行計画である「町田市5ヵ年計画17-21」を策定しました。

この計画は、人口減少・超高齢化社会に真正面から挑戦するものです。人を引きつける都市の新たな魅力と、時代のニーズに適合した新たな公共サービスの形を創り上げるため、未来への投資と公共サービス改革を実行していきます。

子育て世代に選ばれるまちへ

子育て世代から選ばれるまちとなるため、保育所や認定こども園等の整備による保育サービスの拡充や、子どもたちの多様な活動を育む放課後子ども教室、冒険遊び場、子どもクラブ等の整備を進めます。

また、小・中学校では、子どもの学力・体力の向上やICT環境の充実等に重点的に取り組みます。

まちのにぎわい・暮らしの潤いを創出

町田薬師池公園四季彩の杜、芹ヶ谷公園芸術の杜、野津田公園スポーツの森という3つの豊かな地域資源を、それぞれ観光、芸術、スポーツの拠点として整備します。

暮らしに身近な場所で、トップレベルの文化・芸術・スポーツに触れることができるまちとなる。そして、その大きな波及力がまちを活性化し、にぎわいを生み出し、暮らしに潤いを与える、そして新たな雇用を生む。そうした新たな好循環を創り出していきます。

また、副次核である南町田駅と鶴川駅の周辺を、交通や商業だけでなく、緑やにぎわいなど地域の特性に応じた、多機能な拠点としていきま



15年先、30年先も
選ばれるまちとなる

す。中長期的な町田の発展の鍵となるのが、多摩都市モノレールの町田方面延伸、小田急多摩線の延伸です。

特に、多摩地域を南北に結ぶモノレールの延伸は、人口減少と超高齢化が進む中でも町田が活力に満ちたまちであり続けるための、生命線です。その効果は、交通の利便性向上だけでなく、中心市街地の新たなにぎわい創出やまちの更新、団地再生の大きな契機となるなど、多岐にわたります。

30年先も選ばれるまちとなる

今回の5ヵ年計画が描く未来は、人口が減少する中でも、まちが活気にあふれ、さまざまな年代の市民がそれぞれの価値観に合ったライフスタイルを実現できる、夢を叶えられるまちです。

15年先、30年先も魅力にあふれた「選ばれるまちだ」を目指します。

2017年度の主要な施策

将来を担う人が
育つまちをつくる

子どもの居場所づくりの新展開

放課後の子どもの見守り事業である「まちとも」の内容を一新します。新たな「まちとも」は、学校や地域住民を主体とした運営協議会が運営します。また、遊びや勉強など、さまざまな活動に参加することができるもので、2017年度は先行して10校で実施します。

子どもクラブは、小山中学校区での整備に着手します。さらに、芹ヶ谷公園、鶴川中央公園に続き、市内で3番目となる常設の冒険遊び場を小山田地域にオープンします。

また、待機児童解消に向け2018年4月までに保育所の定員を225人増やします。認定こども園、保育所、小規模保育所など、家庭の状況やニーズに応じた選択が可能となるよう、施設の整備を進めていきます。

学校教育環境の充実

町田第一中学校の建て替えへ向け、実施設計を行います。建て替え後の校舎は、地域開放を考慮した教室配置を行うなど、将来のさまざまなニーズに対応できる施設構造とします。新校舎の使用開始は2021年9月、グラウンド整備も含めた全体工事の完了は2022年3月の予定です。

小・中学校の老朽化したトイレの更新・洋式化は、2017年度に小学校4校・中学校6校で工事を行い、すべての学校で完了します。また、今後すべての特別教室に空調設備を設置することとし、2017年度は中学校12校に整備します。

学習意欲を高め、課題を見出し解決する力を育てるため、学校のICT環境を充実させていきます。2017

年度は小・中学校各1校をモデル校に指定して、タブレットやプロジェクト等々を配備し、ICTを活用した効果的な授業の実践と研究を行います。



タブレット端末を活用した授業

安心して生活できる
まちをつくる

体感治安の向上

町田市の刑法犯認知件数は、2012年に4493件であったのが、2016年は3403件、マイナス24%と大幅に減少しています。しかし、振り込め詐欺等による2016年の被害額は約2億円と、多摩26市で一番被害額が多いという統計もあります。

東京都や警視庁との協力によるイベントの実施や防災行政無線を活用した取り組みなどにより、被害防止に重点的に取り組んでいきます。



各地域の方も防犯パトロールを実施

コミュニティセンターの建て替え

玉川学園コミュニティセンターの建替工事に着手します。センターの建て替えに合わせて、玉川学園前駅の駅舎とセンターを接続するデッキを新たに整備します。

にぎわいのある
まちをつくる

野津田公園スポーツの森の魅力向上

野津田公園スポーツの森に、新たに大型映像装置を整備することで、スタジアムとしての魅力を一層高めしていきます。また、FC町田ゼルビアのJ1昇格も見据え、観客席数を1万5000席とする増設計画を進め、2017年度は基本設計を行います。

観光拠点の整備

町田薬師池公園四季彩の杜は、2020年度のオープンを目指して西園の整備工事に着手するとともに、西園内に設ける四季彩の杜ゲートハウスの実施設計を行います。ゲートハウスには、案内所やレストラン、カフェ、大型バスの駐停車スペース等に加え、地元でとれた野菜や加工品等の直売所を設け、町田の「農」を発信する機能も導入します。

中心市街地の交流・にぎわいの創出

芹ヶ谷公園芸術の杜については、

魅力を一層高め、中心市街地のにぎわい・交流の創出につながる再整備を進めます。再整備計画は、2期に分けて行い、2017年度は第1期の整備区域である都営住宅跡地整備の実施設計を行うとともに、小田急線側の密集した樹木の間伐を行い、明るい公園空間を創出します。

暮らしやすい
まちをつくる

南町田駅周辺の新たな拠点整備

南町田地区の「拠点創出まちづくりプロジェクト」は、1月に区画整理事業を着工しました。2017年度は、新しい商業施設、駅施設、南北自由通路の整備工事を開始します。また、駅の北側では、4月に北口駅前広場がオープンし、路線バスやタクシーはすべて、駅前広場から利用できるようになります。

鶴川駅前空間の整備

「鶴川駅前周辺再整備基本方針」に基づき、北口広場の再整備、香山緑地の整備、駅南側の市街地整備、南北自由通路、小田急電鉄による駅舎改良、川崎市と連携した南口へのアクセス路整備など、駅周辺の整備を進めます。

2017年度は、南北自由通路及び、南口土地区画整理事業の調査や測量などを進めます。

資源循環型施設整備の推進

新たな資源循環型施設の整備では、敷地造成や既存管理棟の解体といった工事に着手します。完成は2021年度を予定しています。

新たな施設は、首都圏で初めてとなる生ごみ等のバイオガス化施設を併設する施設です。ごみとして処理する量の減量を前提に、焼却能力を現在の施設よりも4割縮小しています。ごみ発電とバイオガス発電の組み合わせで、高効率の発電が可能となり、災害時にも対応できるエネルギーセンターとして機能します。

むすびに

町田市基本計画「まちだ未来づくりプラン」の前期計画「町田市新5ヵ年計画」では、未来へ向けてのいわば「種蒔き」を進めてきました。この度の新たな5ヵ年計画では、「種を蒔き、芽が出ている」事業や取り組みを、しっかりとした「幹」に育て、未来へつないでいきます。

未来は予想できませんが、選択し創造できるものです。混沌とした時代だからこそ、我々は「こういうまちをつくりたい」と「次の時代への挑戦」を語らなければなりません。

まちなみ、にぎわい、自然のたたずまい、農のある風景、そして何よりも地域の市民の力は、かけがえのない財産です。これらは、まだまだ可能性を秘めています。その力を最大限に発揮させ、市民の皆さんとともに理想の未来を築き上げていきます。